

震災後の農業の取り組み

安達輝

高萩咲希

菊地優希

目的

施設見学を通じて農業の再生と復興まちづくりについて学ぼう



施設見学

安達輝

① ワンダーファーム (いわき市)
トマトのハウス見学とトマト狩り体験
わがたこと、(農業の再生)

② トロピカルフルーツミュージアム (広野町)
バナナのハウス見学
わがたこと (復興まちづくり)

- (1) ロックウェルという土とは違う人工鉱物に植える。
- (2) 水分や養分は点てきのように、チューブを使って与えている。(根の方に)
- (3) (2)の水分は井戸水と雨水を使っている。
- (4) ビニールではなくフィルムを使用し、カーテンや温水を管に流したりすることでハウス内の温度を調整している。
- (5) ハチを使って受粉したり、ロボットを使って消毒したりしている。
- (6) トマト狩りでは、サングリーンという緑色のトマトが一番甘くておいしかった。

- (1) バナナは-60℃にしてねむらせ、生き残った苗を育てることから、震災をのりこえ、町を元気にするため、バナナ栽培に取り組んでいる。
- (2) バナナ以外にも、パイナップル、パパイヤ、コーヒー豆など違うトロピカルフルーツなども育てている
- (3) バナナは、木ではなく草である。
- (4) バナナを刈りかいた株は、切ってしまうけれども、その切った株を1枚1枚かんそうさせて、卒業証書にしたりして、ムダを少なくしている。

ワンダーファーム



↑ 緑色のトマト サングリーン

↑ ロックウェルに植えてあるトマト

↑ たくさんのトマト

トロピカルフルーツミュージアム



↑ バナナ

↑ バナナの花

↑ ほしているバナナの株

↑ ハウスを温める機械

高萩咲希 ワンダーファーム

トマトがりをさせてもらった。
トマトをしょうかくする時に、なかなかうまくできなかった。
トマトをしょうかくする時にいろいろ手間がかかるんだな、と思った。

トロピカルフルーツミュージアム
温室でバナナを見てバナナについていろいろな事を聞いた。
トロピカルフルーツミュージアムは10年前にいちごをさいばいしていたが、失敗して、バナナを作った。
バナナを作るのに温度をこまめに調整している。

菊地優希

震災後の農業の取り組み

震災後の農業の取り組みは生産基盤の復旧や被災した農林漁業者への支援や農林水産物の安全の確保や風評への対応の4つのことをしている。

ばくが体験したこと
・ワンダーファーム

ミニトマト8種、中玉1種
大玉2種をさいばいしているし設です。ふ通は、土を使ってさいばいしますがここではロックウェルという石をせん

い状にしたものを土の代わりに利用し点てき養液さいばいという方法でさいばいして行きました。点てき養液には水と肥料がふくまれています。また、受粉はハチの力を借りています。いろいろ工夫をして、トマトを育てていてすごいなと思いました。

・トロピカルフルーツミュージアム
元々はいちごをさいばいしていたがうまくいかず復旧のためにバナナをさいばいしています。寒い地帯で育てるのはたいへんだなと思いました。



まとめ

震災後は農業を続けるためにいろいろな苦労があったけど、たくさんの工夫をして、トマトを育てる今があるとわかった。

また、バナナを作るという挑戦を通して、夢と希望を持てる町を目指しがんばっている。